

汪精衛の私的訪問

岩永裕吉夫妻の神靈と對面

並に頭山満老翁への表敬

【東京廿二發同照】來朝以來の念が刻みこまれた。かくて圓常盤町の頭山翁邸に入つた。汪精衛院長の心にかりないが、汪氏が同志ともいふ國府再建院長は嗣子秀三氏等に迎へられた。公事のため果し得なかつたに奔走してゐる間昭和四年られて頭山翁の持つ離座敷へ二つの私的訪問があつたが、七月岩永氏は新生國府の誕生を祝ひられた。孫文の書翰を掲げて十二日の日曜日の朝ようやくをもすして輕井澤の別邸にけた床を背に白骨の翁をかこ果されることがとなつた。それ遡りた。爾來二千霜、國事にむで右に汪院長、左に諸大佐は今は故人となつた前同盟通使長岩永裕吉夫婦の神靈と對面と頭山満老翁への表敬である。

汪院長はこの朝八時十分緒大使、周外交部長を連れて品川區上大崎の岩永邸を訪ねた。當主新吉氏に迎へられ故人が日常親しんでゐた書齋内の裕吉氏および鈴木夫人の寫眞と靈位に三掬禮拜し、新吉氏一家と膝を交へて亡妻を偲ぶ敬意の程を剖いて今日の日を心と爲な憶ひ出話を交した。忙しに待つた汪院長と岩永氏との間には次ぎのやうな祕められた話題がある。

事務勃興重慶遷都へと渾卷く日支の動亂の中にあつて封日和平を冀つてやまなかつた將軍が、青い空と嶺の白雪を

おどりて、その心を理解し、表徵して現在のアルゼンチンへてゐたのは故岩永氏だつた。共和國の國旗を制定した日で昭和十四年汪氏が昆明から河内へ抗日陣營を脱出して以來岩永氏から公私にわかつて汪氏の心境を最もよく理解し、表徵して現在のアルゼンチンへてゐたのは故岩永氏だつた。

昭和十四年汪氏が昆明から河内へ抗日陣營を脱出して以來

二十一年前、即ち千百二十一年の六月二十日にベルグラン

ノイエラレードの死を知り、同

年の五月二十日にベルグラン

ノイエラレードの死を知り、同